

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「セブン&アイ、都内の大型スーパーで東北復興支援イベント」
- 2) 「三越伊勢丹、空港内店舗事業を開始」
- 3) 「政府、災害時に“病院船”検討」
- 4) 「B-1 グランプリ、1位は“ひるぜん焼そば好いとん会”」

1) 「セブン&アイ、都内の大型スーパーで東北復興支援イベント」

東日本大震災から8ヵ月目を迎えた11日、イトーヨーカドーアリオ北砂店で、福島県の佐藤雄平知事や同県出身の俳優、梅沢富美男さんを招いて復興支援に向けたイベントが行われた。

セブン&アイ・ホールディングスと麒麟ビールなど食品メーカー22社、宮城、岩手、福島の3県などが共同で3年間にわたり東日本大震災の復興支援を行う「東北かけはしプロジェクト」の一環。

店内1階の特設会場ではまず、イトーヨーカ堂の亀井淳社長が集まった買い物客に向かって「復興に向けてできる限りのお手伝いをさせていただきたい」と支援への決意を改めて表明。駆けつけた麒麟ビールの松沢幸一社長も「一人一人ができることをして一日も早い復興を」とあいさつすると、佐藤知事は「みなさんに激励をいただき勇気が出た。全力で頑張る」と応えた。会場では梅沢さんによる歌も披露された。

「東北かけはしプロジェクト」では、同店を含む全国のイトーヨーカドーやセブーンイレブン、ヨークベニマルなどセブン&アイHDのグループ各店で今年7日から来年1月9日まで、東北の農産物や海産物、被災企業の商品などを前面に押し出して販売する。2014年まで同様の企画を計6回実施する予定。

単発の復興支援は様々な取り組みがあるが、中々長期的なスパンでの支援を行う所は少ない。影響力のある企業が先導をし、他の企業にも波及して欲しいところだ。

2) 「三越伊勢丹、空港内店舗事業を開始」

三越伊勢丹ホールディングスは11月10日、空港内店舗事業を開始すると発表した。

2012年春に、羽田空港ターミナルに初の紳士雑貨を主体とした店舗を展開する。「顧客接点の再強化」に向けた新しいチャネル開発の一環という。日本空港ビルデングが営業する店舗の設計から参画し、商品供給業務、販売業務等を受託する。

顧客像は羽田空港のヘビーユーザーである男性のビジネスマン、エグゼクティブ。品揃えは、伊勢丹ならではの品質かつ独自性の高い紳士雑貨、洋品に加え、新たにフーズギフト、カフェ

エを提案。ビジネスマンが行き交う羽田空港の立地特性を踏まえた上質な品揃えとサービスで、新しい店舗モデルの確立を目指す。店舗環境では、寛ぎながら買い物できるラウンジ的な空間を演出する。販売サービスでは、アクティブなビジネスマンに向け、百貨店ならではの迅速、きめ細かなサービスを提供する。

この店舗をモデルケースに、日本空港ビルデングとの長期的な取り組みを検討しているようだ。店舗名称は未定。

東京以外の地方での百貨店事業に苦戦している会社だが、活路を見いだすべく新たな挑戦をする。百貨店という大きな店構えが、テナント規模となることでどのようなサービスが提供できるのか期待したい。

3) 「政府、災害時に“病院船”検討」

政府は大規模災害に対応するため、医療施設を備えた「病院船」（災害時多目的船）の検討を始める。今月にも有識者や関係省庁からなる検討会議の初会合を開き、来年3月までに結論を出す。

東日本大震災では津波被害や停電、断水で病院の業務に支障を来した。患者輸送も困難だったことから被災地に近い沖合に派遣できる病院船の必要性があると判断した。

病院船はヘリポートを完備し、患者をヘリで輸送することを想定。数百の病床や複数の手術室などを設ける。電力や水、食糧など一定期間、賄えるようにする。計画段階では内閣府が担当し、運用は海上保安庁か防衛省に移管する見通しだ。

病院船の製造には数百億円かかるとみられるほか、平時の活用方法や維持費も課題だ。1995年の阪神大震災の際にも病院船の導入が浮上したが、実現しなかった。平時に海外での災害対応など国際協力に役立てる案もある。

常に「最悪の事態」については考えてられているはずだが、それがまったく万全ではないということを経験の大震災で誰もが感じたと思う。

阪神大震災後後の計画では見送られたということだが、今後に備えて是非実現に向けて取り組んでもらいたい。そしてその分に予算を回すために、日本の「ムダ」をよく考えてもらいたい。

4) 「B-1 グランプリ、1位は“ひるぜん焼そば好いとん会”」

兵庫県姫路市で2日間にわたって開かれたB級ご当地グルメの祭典「第6回B-1グランプリ」が13日閉幕した。来場者による人気投票の結果、「ひるぜん焼そば好いとん会」（岡山県真庭市）が1位のゴールドグランプリに輝いた。岡山県その他2団体も2、9位に入る人気ぶり。また、東日本大震災の被災地の2団体が10位以内に入った。

来場者は51万5000人（主催者発表）と過去最多。次回は来年10月20、21日、北九州市で開かれる。

「ひるぜん焼そば」はソースの代わりにみそだれを使うのが特長。同会は2位だった昨年よりスタッフ数を20人増やして60人とし、鉄板も8枚から9枚に増やして臨んだという。石賀幹浩会長は「夢のよう。最高のまちおこしができた」と喜びを語った。

B-1 グランプリ 1位から10位までの結果

- 1位「ひるぜん焼そば」
- 2位「津山ホルモンうどん」
- 3位「八戸せんべい汁」
- 4位「なみえ焼そば」
- 5位「今治焼豚玉子飯」
- 6位「石巻焼きそば」
- 7位「勝浦タンタンメン」
- 8位「十和田バラ焼き」
- 9位「日生カキオコ」
- 10位「あかし玉子焼」

ラジオの渋滞情報で姫路方面がやけに混んでいると伝えられていたが、51万の人出と聞いて納得した。地域活性のために一つになって頑張ろうとする取り組みには感心させられる。これだけ話題になれば現地に行って食べてみたいと思う人も多いただろう。街の宣伝に欠かせなくなったグランプリだが、こうした取り組みはずっと続いて欲しいと思う。